

報道関係者各位

2018年5月31日

【第12回1型糖尿病研究基金 研究費助成課題決定】  
最長6年間の継続研究支援“遺伝子改変ブタの開発”等3件に決定



全国の1型糖尿病患者・家族を支援する私たち認定特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク（理事長 井上龍夫、本部 佐賀市）は、1型糖尿病根絶（＝予防＋根治＋治療）を目指す研究の助成課題を下記の通り3件決定いたしました。

○1型糖尿病根治を目的とした羊膜上皮細胞移植臨床導入のための基盤構築

研究代表者：戸子台和哲東北大学消化器外科学助教

助成金：300万円（1年間）

<理事長コメント>

ヒトの羊膜という供給源としても豊富で安全性の高い細胞への着目が独創的です。この研究で羊膜細胞の持つ高い分化能や免疫拒絶反応の抑制効果などが明らかにされることで、現状の膵島移植の課題解決にもつながる新しい根治法の選択肢として確立されることを期待します。

○自然免疫系を標的とした1型糖尿病の治療法開発

研究代表者：福井竜太郎東京大学医科学研究所感染遺伝学分野助教

助成金：100万円（最長4年間）

<理事長コメント>

1型糖尿病は免疫作用の暴走であることは知られていますが、これまで注目されていなかったヒトの「自然免疫」の働きに着眼した研究です。その自然免疫を弱める薬剤を開発し、1型糖尿病の発症予防やその1型糖尿病の進展を抑える新しい治療方法になることを期待します。

○糖尿病治療用遺伝子改変ブタの開発

研究代表者：宮川周士大阪大学医学系研究科准教授

助成金：100万円（最長6年間）

#### <理事長コメント>

私たちの推進している「バイオ人工膵島移植」の実現に重要な要素である「膵島供給源」となるブタの開発です。この研究でヒトへの移植に最適化された遺伝子改変ブタが開発され、日本オリジナルのバイオ人工膵島移植技術が完成することを期待します。

なお、日本 IDDM ネットワークが早期の臨床実現に向けて期待しているバイオ人工膵島移植プロジェクトは下記をご参照ください。

[http://japan-iddm.net/bio\\_iol\\_pjt/](http://japan-iddm.net/bio_iol_pjt/)

#### ■研究費助成について

1型糖尿病患者・家族が中心となって運営する日本 IDDM ネットワークでは、2005年の1型糖尿病研究基金設立後、これまで48件、2億5460万円の研究費助成を行ってまいりました。

当基金は、患者・家族自らが「不治の病を治る病にする」、「不可能を可能にする」挑戦に賛同いただいた方々からの当法人への直接の寄付並びに“佐賀県庁への「日本 IDDM ネットワーク指定」ふるさと納税”など、日本全国の方々からのご支援で成り立っています。

若手研究者への継続的助成、基礎研究から即効性のある研究までバランスのとれた助成といった日本のおかれた研究施策課題解決の一助にもなればと思っております。

#### 《1型糖尿病とは》

原因不明で突然、小児期に発症することが多く、現在の医学水準では発症すると生涯に渡って毎日4-5回の注射又はポンプによる補充がないと数日で死に至る難病。糖尿病患者の大半を占める生活習慣病と称される2型糖尿病に対し、国内での年間発症率は10万人当たり1-2人と希少な病であるため患者と家族の精神的、経済的負担は大きい。

#### 【お問い合わせ先】

名 称：認定特定非営利活動法人日本 IDDM ネットワーク

所在地：〒840-0823 佐賀県佐賀市柳町 4-13

担当者：理事長 井上龍夫、 事務局 大村あずさ

電 話：0952-20-2062、080-5127-2759（井上）、080-5243-0671（大村）

Fax : 020-4664-1804

E-mail : [info@japan-iddm.net](mailto:info@japan-iddm.net)

WEB : <http://japan-iddm.net/>